工業經理規範

大野 嚴*

- 1. 貸借對照表及勘定科目 (1) 一般科目 (2) 製造勘定 (3) 代金內入金 (4) 經費科目
- 2. 會計傳票 3. 元 帳 4. 工作口別帳 5. 原價計算 6. 原價計算に於ける間接費の割賦
 - (1) 賣價比例法 (2) 製作原價比例法 (3) 工賃比例分配法 (4) 實費配分法 (5) 結言
- 7. 營業總覽表 (1) 現品進度査定法 (2) 支拂勘定進度法
- 8. 損益計算 (1) 計算の方針 (2) 未收金入金(未排金出金)記入法 (3) 損益計算法 (4) 計算の完結

從來の工業簿記は極めて一般的なる場合を想定して其 規範の概要を示したものであるから實際の場合に當り其 の事業の現況を審かにせずして其儘之を採用實施しても 多くの場合所期の如き結果を收めることは困難である。 所詮工業の經理制度は其事業の種類、規模の大小、運用 する人の如何等に依りて適當に立案決定せらる可きもの である。

又往々仕事と經理との兩方面が互に何等の理解なくして對立し、甚だしきは之が却て各其專門に分れる事の樣に考へて居る會社工場等を見受けるが、眞に著しき膠見であつて從來の經驗と觀察とによれば此樣なる弊害に陷り居る工場は多くは依つて生ずる經費過多に起因して其營業成績又連年不振に終始して居る事を見受ける。必ずや經理擔當者は完全に其會社の仕事を理解し簡明確切にして時機に適應すべき制度方法を以て之を處理し又直接事業の運用に當る者は常に會社の資産、損益の狀態、變動等に就き充分に之を知悉したる上に於て刻々の萬事を處理裁斷す可きものであることは事業經營上必要缺く可からざる要件である。

又實際に當つては事業全體に對して數の價値論、精確 性の適應限度、或は記帳經費等の事を念頭に置いて其樣 式を定める必要がある。多くの人手と長き時間を費せば 如何樣にも微細に表示することは出來るが事業の諸條件 はこの出費に對して迄その結果を要求して居るや否や、 寧ろ簡潔にして迅速に其大綱を摑むことを必要とするも のに非ざるか。常に責任の衝に當るものは會社全體を通 じて事務工務等一般の釣合を考慮し其精度を決定す可き である。著者同種事業を經營すること多年殊に最近數年 間幾多の傍系會社に關係して何れも本樣式を採用して略 々所期の目的を達することを得、又近時各方面より本法 を採用せんことを希望せらるよ向續出せるを以て之を纒 めて以下に記すこととする。

1. 貸借對照表及勘定科目

(1) 一般科目

會社の會計帳簿に於ける貸借對照表及其の勘定科目は 第1表の如くにして貸借共合計欄は決算時に於ける元帳 の各勘定科目の合計を轉記し、殘高欄には其差引殘高を 轉記す。又月計の欄は最近1ヶ月間に於ける其增減を表 はすものとす。本表表面の上半部即ち未拂込資本金より 預金及現金に至る迄は主として資産科目を表はし、下半 部資本金より假受金に至る迄は負債科目を表はし、裏面 俸給以下は經費の明細を表はすものとす。

各勘定科目中未拂込資本金、土地、建物、什器及備品、機械及設備、特許權等は總括して之を生產固定設備と看做す可きものにして特に說明を要せず、通常の工業簿記と同樣なり。材料及在庫品に就ては材料とは商品製作に必要なる材料の一切を含むものにして本社の規定として引當材料及在庫材料の2種に分つ。引當材料とは購入の當初より受註種目に對し用途の確定し居るものにして一般的に使用するに非ざるもの、在庫材料とは買入當初に於てはその用途何れの製造勘定に使用するやの不明なる

^{*}大野化學機械株式會社取締役社長

一般材料を表はするのとす。在庫品とは在庫商品の意味にして製作工作の全部を終り購入者の未だ確定し居らざる製品を指するのなり。引當材料は次項の製造勘定中に含ましむ。

(2) 製造勘定

製造勘定の科目中には次の4項を含む。

- ① 繰越製造勘定 前期より繰越仕掛品の原價支拂高
- ② 前期仕掛品見越利益 ①の製作進度分利益にして前期に於て仕掛品利益として 既に計上濟のもの即ち當期決算に於て定了品利益の中よ り控除せらるべき分。
- ③ 當期製造勘定 當期仕掛品原價支拂分
- ④ 前期完了未拂金の當期に於ける出金

此第①及第②は前期末の決算書に明記せらるる處にして今決算期間中は不變なる數字なり。依て製造勘定の殘高より此第①第②第④項を差引き之に今期製造勘定の未拂分を加算したるものはその期間に於ける會社の製造能力を原價に於て表はしたるものにして、その月計は最近1ヶ月に於ける製造支拂高を表はすものとす。但し營業の收支項數比較的僅少にして前期の未拂金支拂の際簡單に未拂金決濟として漸減記帳し得る場合に於ては此第④項は存在せず。

(3) 代金內入金

代金內入金及未精算賣上金の双方を合算したるものに して一決算期中の營業入金は一先づ全部之を本科目中に 記入す。即ち前期完了品の未收金にして前期末の決算表 に計上しあるものの當期に於ける入金も亦この中に含ま る。當期に於ける入金に於ても手金、內金、殘金等その 性質の如何に拘はらず雜收入以外受入れたる入金の全部 はこの中に包括記入せらる。更に之を期別に記載すると きは、

- (イ) 前期末仕掛品の内入金
- (ロ) 當期代金內入金、手金、殘金その他營業入金の全部
- (ハ) 前期完了品未收金の今期に於ける入金

の3種に分たる。依て貸借對照表の本科目殘高よりこの (イ)項及(ハ)項を差引きたるものは當期に入りてよりの 營業入金の全額にしてその月計は最近1ヶ月間に於ける 入金を表はすものなり。

第 1 表表面(5/2大)

首借對照 寒

	(lt		カ	(査 産)		より は がく負債	E)
ij	āt	錢	献	合	81		月計
	FI		191		P	未挑込資本金 """	N
	1-1				_	土 地	
				1	_	难物	
	17				-	什 器 及 備 品	
	1-		+	1	_	機 械 及 股 備	
	+-		+	_	-	特 許 権	
_	\top	-	\neg	1	╅	材料及在庫品	
_	\Box				┰	*製造勘定	
_	11				-i	** 收 金	
_	1-1		-	 	_	立替金	_
_	1-1			\vdash	-	受取手形	_
_	1-1			1	_	似 挑 金	
_	\vdash		+	1	\vdash	出級所勘定 -	
-			+	 	+-	有假腔券	٠.
-	╟╌╏		+-	 	+-	預金及現金	\dashv
_	╁═╟		+		+		+
-	╁╼╂			 	-		
	\vdash		+	1	+-	我 本 欽	
	-			ļ	+	机立金	—├
	+-}		-	·	-	操盤金	
_			+	<u> </u>	+	○代金内入金	-
-	+		+	<u> </u>	-	*未 梯 金	+
	 }		-		+-	() 入金	-+-
	 -			·	+-	文 排 手 形	-+-
_				<u> </u>	-	俊 受 錠	
			-	<u> </u>			+
_	 		-	 	+		
	⊢⊦			ļ		*難 收入	
	┝╌╟				+-		-
_	₩;			├──	-	· 營業及工場經費	
				<u> </u>	+	野上扣 盆	
-	-			<u> </u>	+-		_ _
			_ .	<u>!</u>	_ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	含 31	

第 1 表裏面(%大)

•					_ 經	費	內	i i	£ :	表						
					第	107	阳	和		年						
科		B	合	81		В		Ą		月	-	11		A		J.
蟹 業	絕	黄		P			F		-	PI		1	,	1	1	1
作		輸		.								L				I
件	地	*1			<u> </u>			_		-	<u> </u>		<u> </u>	_		4
	11/2 14/	*1	——	-	<u> </u>	 		-		-	<u> </u>	 	 	_		-
故	17	农		+	<u> </u>	-		-		-		ļ		<u> </u>		- -
交	P 35	农								-		-		-		H
迎	(3)	收		\top				H	_	۲÷				\vdash	·	+-
蝉	d))	收		_						- -		一	-	-		╁
雜		妆							_	_				-		╁
												-		\vdash		۲
₩	究	費		_					_			_		Ι.		Г
Rfs		投		_ _												C
税		氽						_								
特	8F	料		- -						<u> </u>						L
火災					 			-			<u> </u>	_				Ļ
利息					<u> </u>					-		L				╀
79.6.	A 89 5	***		+				-		+-		<u> </u>		\vdash		┼-
		-							-	-		-				╀
1	,	2t						-1		-		-				⊢
工 場	軽	类			· ·	T			_	+-	_			-		╁
Eb	カ	\$1						-				-				┢
102	熱	費		_ ·				-	_	- -						-
電	悦	料										m				Г
II.	斯	代								7,						Г
	#1	收		[_1		\subseteq								Ξ
	10	\$4		_ _												
工場	柳朝			- -		_1										L
給與		費費		-		_ -		_1		_ _						L
健康				-		-		_[_						L
INTE ANT	IK PU					_		_		-	<u> </u>					L
		-		-		-					<u> </u>			1		L
- 4	,	87		-		-				-						ļ.,
· 莱及工場		B)						1								L

(4) 經 費 科 目

營業及工場經費は其双方を合算したる經營科目にして、その合計は本期の當初より計算時に至る迄の間接經費の總額を表はし、月計は計算時最近に於ける其月額を用意はす。更に其內譯表は第1表裏面の通りとす。

2, 會計傳票

様式第2表の如し。會計帳簿に記入せらるべき傳票は入金、出金、振替、倉庫出入共全部同一様式のものを用ふ。製造勘定の場合は工作口別帳に於て原價計算を明瞭ならしむるため科目欄に製造勘定——工作番號第何號として、次に第5表の原價計算書書式の第1內譯(1)材料費、(2)外注品、(3)工賃、(4)直接雜費の何れに屬するかを明記す。代金內入金に於ても同樣所屬工作番號を附記し、銀行預金に於ては預金先の銀行名を添記す。

第 2 表(%大)

第		號	何	41	7 々株	式會	社傳票		社長	危務	₩81	工務	保具
-			胺	和	华	月	П						
借	方	科	目		摘		契	科	E		货		方
1 .										П	11	\prod	
'' 	╁	+-						十		+	††	İΗ	
╌┼╂		-		-				╁		-1-1	╁╂	H	_
	Ш.	_								_ _	Ш	Ш	
	11	ł								Ш	11	Ш	
								T		11	71	\Box	
++++		+						╁		H	╁╟	H	
	41	_						↓_		11	11	Ш	
				1				1		11		Ш	
ПП	П	\neg						1		П		П	
┾┼╂	╁╟	+-		-	-			-		1†	╁	+	_
44	₩.							-		4	+ -	Ш	
		_									П	Ш	
	Πĺ	T			合		#			П	T	П	
	_	!								11.			-

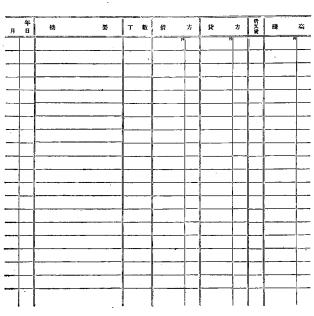
3. 元 帳

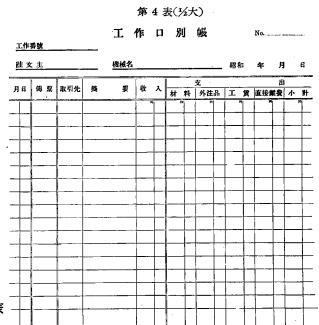
製造勘定及代金內入金以外の勘定科目に於ては**第3表** の如き元帳樣式を用ふ。此點一般簿記様式と同樣なり。

4. 工作口別帳

第4表の如き様式を用ひ、仕事の各口別に付收入欄及 支出欄を設け、この支出欄を更に第5表の分類に從ひ材料、外注品、工賃、直接雜費の4項に分つ。收入欄は代 金內入金科目の記入にして支出欄には製造勘定を第5表 原價計算書書式第1段の分類に依り記入する所にして元

第 3 表(%大)





帳簿口座中の製造勘定及代金內入金を兼ね備ふ。

5. 原 價 計 算

本社の原價計算の分類樣式は第5表の如くにして、會計傳票より工作口別帳に轉記と同時に何時にても明示せられ居る樣成り居る樣式にして、その收入合計は貸借對照表の代金內入金に合致し支出合計は同製造勘定に合致するものなるを以て、貸借對照表の作成と相俟つて其間

に誤記、脫漏等のあり得可き餘地無きものとす。之を從來の原價計算法に比較する時は從來の方法は材料、工賃 其他を一括して其收支を記帳し、之を以て貸借對照表を 作成し、原價計算は事後必要に應じてその仕事に對する 材料、工賃等を拾ひ出し改めて原價計算を行ふものにし て常にその收支を總計して前記貸借對照表に合致せしむ ることを爲さざるを以て、其間に誤記、脫漏或は作意等 の餘地あり、徒らに記入經費多くして却て事務遲延し且 正確ならず。然るに之を本法による時は特に原價計算を 行ふことなくして工作口別帳の記帳と同時にその原價を 簡潔且正確に分類明示せられ居るの利あるものとす。

尚原價計算に於ける分類範圍の詳細度に就ては通常第 5 表の項目のみを以て表示するものなりと雖も、更に進 んで其再內譯を必要とする場合に於ては、同樣第5表の 種目、細目、包括費目等に指定に從ひ分類明示す可きも のとす。

6. 原價計算に於ける間接費の割賦

直接費に加算す可き間接費の割賦法については下の如き各種の計算あり。

(1) 賣價比例法

一定期間の間接經費の總額をその期間に於ける賣上高を以て除し、その比率を以て間接經費の總額を各仕事の直接費に割當加算するものにして通常最も廣く採用せらる」方法なり。この法による時は割賦計算極めて簡單にして手數を要せざれども一面不合理の點あるを発れず。即ち同樣なる製品に於て其製作の時期によりて著しく原價の相違する結果を生す。間接經費の總額は月毎、期毎に於て略ぼ一定なるに對し賣上高には常に相當の盛衰あり、從て賣上高の多き月に於ては間接費割賦少額となり少き場合に於ては割賦額比較的多額に上る。又此間接費を內容的に見るときは仕事の性質により此の經費を必要とする事の多寡は必ずしも同率ならず、受註金額の大小に大なる關係なし。即ち小金額のものに於て著しく手數を要するものあり、又大金額に於て殆ど手數を要せざるものあるの實狀にありて此點又相當の不合理を含む。

(2) 製作原價比例法

間接經費の總額を其の期間に於ける正味の製作勘定を

以て除し、この比率を以て間接經費をこの原價に加算するものにして、往々工場を主とする工業に於て採用せらる」方法なり。之を前項の方法に比較する時は內容的には若干理論的なるも原價計算完結の時期は受註確定の時期より相當の日時を要するを以て計上時期遅る」の缺點あり。

(3) 工賃比例分配法

間接經費を内容的に觀て、その分擔額は製造直接費中の工賃に比例す可しとの假定の下に打立てられたる分配 法にして、第2法に比し更に一層事實に近きものなれど も、之又第2項と同様なる缺點を有し、業界の一部分に 於て採用せらる」に過ぎざるものとす。

(4) 實費分配分法

間接經費の中にてその仕事にのみ要したる配分額を出來得る限り理論的に算出するものにして、即ち土地、建物の占有量、技術者の俸給、動力費、燃料等その都度推

第 5 表(5/大)

價計算書々式 項目種目 細 1. 炒 嫩 姆 纲 2. 纲 板 纲 射 3. 做 T 及 職 子 4. 紙 釘 漿 子 5. 清 板 轍 較 催 個板、丸角師、アンダル、 豊苦、ソケラト、チーズ、ニ リベツト、ポルト、ナツト、塩金、搾菓子、割ヒン、釘、総等 互釣引機板、ブリモ板、半田、機能等 材 』 { 1. 青 非金 { 2. 銅2 鐵腦 { 3. 輕 現底、産輸、税、スプロセツト、輸象、関切等一式 グブルブ、コック、ゲージ、安全条、股力計、水壊計、トラップ等 保道材、耐火料、コンクリート無、南干、皮、ゴム、ベークライト、相談品、金 材 m (亱 モートル、配電値 設定機、電熱機、抵抗器、他モートル以外の電線機械一式 適内外電線、配線 料電機 木型。木型修理代 各種構造材料用木材 1. 整 料 石炭、木炭、コークス、 実別、 製等一式・ 2. 電 紅 料 焙焼用、 動力用、 電流料一式 3. 酸 素 代 焙焼用、 酸素代 4. 数 医糖 材料 数 減減機及数酸回加減時費 5. 前 軽 品 が焼棒, カーパイド、液 ボロ、 癬、 白ベンキ, 光明丹、用紙一式 费 領止メ、上棟、標廠文字、漆塗等一式 ニツケル酸金、クローム酸金、鉛酸金等 アルミニニム表面酸化、螺板防鍋酸化等 1. 抽 粧食 接外品 注 品 唯姓上世会 戦場、体接工一式 旋盤、ブレーナー、シエーパー ボール盤、値切り工等一式 I 3 仕上、組立一式 検査、工場内試運修一式 概念、ブリキヤ、銅工等 動工 大工、木型帥 製作 J. 工質 衰 煉瓦。コンクリートエー式 補助工、雑役一式 1. 监 各 料 据数 2. 出 录 歌 工 付 3. 出光 略 毕 工 17 | 1. 別 東 景 従来版=開接費ヲ以テ支持シ房トモノ・特=此内=針上セズ。 | 説 料 2. 数 計 料 | 末住車ノタノ特=塩均=支出ショル・並外=気温ショルモノノ費用ノリテ計上フ。 費 in ant 1 ń 貸 按 Ŋ 接費 受債制務表施費料目ノ通り。

定計算の下に分配するものにして、殘餘の如何にしても 工作口別に分ち得ざる部分を最小額ならしめ、之を前記 の配分法によりて加算し、各口別に割賦する方法にして 內容的には最も理論的なる方法なり。然れどもその記入 手數煩雜を極め事實上實行困難なり。

(5) 結 言

以上の如く間接經費の配分法は互に一長一短ありて此種工業に於ては直接費と間接費とは其數字としての意味及價値に格段の相違あるを以て通常時に於ては此割賦を行はざるも必要ある場合に於ては第1法を採用するを以て普通とす。

第 6 表(%大)

									工作番號	統		5
			_	4	1 18		數量		本教作品	į 1	年 月	_1
註文:			殿	_	- 14	w.tr.	//r	_	註文確定		月	1
使用主			殿	د	- 17F	豫	算表	:	納制	A		
遊覧者	<u> </u>		RQ.						受波場所	F		_
群號	機	椒	名	數量	K	揺	赴內見	瓶	下請見積	摘要	提出見程	đ
							14		34		P	_
\dashv							<u> </u>				·	
				\vdash								
								-				
4		•						L			ļ	_
_ .				_				L			ļ	
							l			<u> </u>		
\neg							ļ					_
\dashv		-						H				-
\dashv			•	-				-			-	
\dashv				\vdash				\vdash				_
								L				_
_				\perp								
												_
.					i							
	合	8	†									
寸	决	定 1	A				-	П		-		
肚		本作成		<u>!</u>					· ·			
			1									
	-		老									

7. 営業總覽表

貸借對照表に於てはその決算時に於ける會社の資産及 負債の狀態は明瞭に表示せられ居ると雖もその仕事各口 別の損益、現在の手持仕事高、仕掛品進捗の狀況、將來 に於ける會社の成績豫想、爾後に於ける金融狀態の見越 等は一切不明なり。之等を明瞭ならしむるため毎月支拂 日の直後に於て技術營業共主腦幹部集合の上、完成仕掛 品共仕事の各項に付詳細審議の上本表を作成す。第7表 の如し。

縦の二條黑線を以て本表を大別す。左の品目欄は受註 年月日、工番、註文主、品名、數量、納期年月日、摘要 等にして次欄の得意先勘定は註文金額欄に契約書による 所の註文金額を記入し、代金內入の節には手金、內金、 殘金等本口座に於ける入金を工作口別帳より口別に轉記 し、同じく同未收欄には之を差引きたるその未收額を記 入す。

次の製作勘定欄は豫定原價の欄に最初の見積書提出前 にその基礎となるべき第6表様式の如き工作豫算表より 提出見積額を轉記す。但しての金額は製造工程の進捗に 從て若干の增減あるを以て毎月末支拂日直後に於て開催 する幹部會議に於て工作各口別に對する未拂金額を査定 し、之と帳簿上の支拂濟の金額とを加算して、その都度 其記帳時に於ける最も眞實に近き豫定原價を算出し、之 を記入するものとす。卽ち豫定原價はその中に含む支拂 濟の分は旣に支出に屬するを以て單に工作口別帳より轉 記するに止まるものなれども、その未拂分は要するに擔 當者の豫想に屬するものなるを以て、見積提出前に於け る推算を以て工作の最後迄不變のものとして計算するは 常識上妥當ならず。工事の進捗につれて、その未完成範 圍は漸次縮少せらるるを以て、之に對する出費の豫想も **寘實に近づくものたる事は想像に難からず、製作進度○** %のものは見積豫算の儘之を計上す。次の利率欄は間接 經費を除外したる製造利益金の賣價に對する比率を指す ものなり。卽ち、

(註文金額 - 豫定原價) × 100 註 文 金 額

當社の仕掛品と稱するは受註直後より調査、實驗、設計、製圖等之に關する準備作業を行ひ、製作を終り部分品を取揃へ組立を完了し試運轉を終り、現地に搬入して之を据附け需要者の要求する立會試驗を行ひ、之に合格して物件引渡しの完了する迄の範圍の途中にあるものを全部仕掛品と稱へ、この行程を完了して代金の授受を終らざるのみなるものを完了品と稱す。以上の受註確定には軍の生產命令、先方の註文書或は正式契約書を取交したる時を以てその受註關係の開始とみるを原則とするも、實際に於ては官廳の內示或は長年取引上信用ある得

械 化

意先の口頭註文等は實質に於て確定註文と何等の相違な きを以て、正式書類の有無に拘らず之を確定したるもの として計上す。

製作進度: ―― 受註後未掛のものを0%とし完了品を 100% とす。その中間の進捗の程度の査定法に2種あ b o

① 現品進度查定法:——

擔當技術家の判斷により決定す。その判斷の標準 は之を正確に述ぶる時は、その見積りたる豫算原 價の總額を100とし、原價計算に於ける第1內譯、 材料、外注品、工賃及直接雜費の4項がその豫定 原價の内を占むる各%を出し、假に之を第1%と 名づけ仕事の準備進捗に從て 更に この各部門を 100 と見て、その中の材料の準備程度、外注品の 進捗、勞務工程の進度、直接雜費の支出及豫想等 がこの第1%の中の何程の部分を完了したるやを 推定算出し、この各部分の既濟%を第2%と假定 す。然る時はこの第1及第2%の相乘積の合計が 仕事の總製作進度となるものなり。但し通常の場 合に於ては擔當技術員の總括的推算を以て其進度 を何%と決定す。

此進度分の査定は營業損益計算の結果に及ぼす影 響大なるものあるを以て毎期末に於ける計算時に 於ては、社長若しくは最高技術員必ず立會ひの上、 その擔當者の査定の當否を審査決定するものと す。新に發明せられたる機械或は研究直後に於け る試作等に於ては多くの場合需要者はその構造機 能等を熟知し居らざるを以て、當然供給者に於て 充分なる機能引受の保證を行ふ事を必要とし、往 々生する處の遠算或は現地の狀況の不知による等 の各種の原因に基因して最初の1囘に於ては所定 の効果を擧げ得ざる事あり。從てその前途に對し 若干の不安を含むものはこの進度査定を幾分控目 にみるを以て安全且至當とす。

② 支拂勘定進度法:---

豫定原價中の支拂濟の比率を以て其作業の進度と 看做す方法にして、即ち、

製造進度=製造勘定支拂濟×100 豫定原價

正常に査定せられたる第1法と精確に記帳せられ たる此第2法とは原則としては結果に於て合致す べき筈なれども決算期中途に於ける概算假決算等 に於ては往々若干の差違を生ず。工賃及材料費は 毎月末に於て未拂となる場合殆んど無きものなれ ども外注品に於ては往々作業の進度と支拂の狀況 と相伴はざることあり。作業の進捗し居るに拘は らず完成に至らざるものは未請求の場合多きを以 て、此場合に於ては社内に於て一旦支拂ひたるも のとして假受金の形式を取り置く事を必要とす。 同様に又未だ作業に着手せざるものに對し手金叉 は前渡金を支給したるものは之を製造勘定より支 出せずして假拂金となすことを要す。

進度分利益:---

次の算式により計算す。

仕掛品進度分利益=現在進度

×(受註高-最近豫定原價)

支拂濟:---

製造勘定に於ける工作口別帳の支拂額の合計を轉 記す。

製作勘定未拂:---

計算時に於けるその工作番號に屬する仕事を完了 する迄に要する未拂分を査定して之を計上す。

收入支出發質:----

その計算時より爾後4ヶ月間の收支を記載するも のにして、その各月に於ける收入の部は前々項得 意先勘定の未收の部の内譯にして、支出の部の合 計は前項製作勘定の未拂の額に合致す。何れもそ の收支の時期を推定したるものにして、この各月 に於ける工作別の總合計は會社營業收支の爾後に 於ける根據ある豫想にして、更に之に各月の營業 費、假勘定の收支、借入金の返濟、受取手形、支 拂手形の決濟等をその豫想月に於て記入する時は 爾後4ヶ月間に於る會社の收支全部を豫定する最 も正確なる數字を得、事業經營上貸借對照表と相 俟つて重要なる指針となるものなり。尚この營業

總覽表に記載する範圍は完了品に於て未收或は未 拂の殘存し居るもの及仕掛品の全部にして、完了 品にして全部の代金を受領し、製作勘定の全額を 支拂ひ終りたるものは本表に計上せず。又記入に 際しては之を大別して前期完了品、今期完了品及 び仕掛品の3部に分ち、各その小計を出し更にそ の總合計を記入するものとす。

營業費貸借關係等に屬するものは別頁として添 附し、その最後に於て會社の總收支の合計を記載 するを便とす。

尚本表より事業經營上必要なる次の各項を知る 事を得。

(a) 手持仕事

本表得意先勘定中の註文金額の總合計なり。

通常稱ふる所の手持仕事の意味は各會社により異り、その意味稍々漠然たるものなりと雖も營業狀態盛衰の概要を知る事を得。

(b) 仕掛品

本表の得意先勘定中の註文金額の仕掛品の部に於ける合計なり。

(c) 完了品未收額

得意先勘定中の前期完了品未收金と今期完了品未收金との合計なり。

(d) 總未收金

得意先勘定中の完了、仕掛共未收金の總合計なり。 この未收2項は近き將來に於ける入金を豫約せられたるものにして會社金融上往々必要とする事あり。

(e) 總製造利益率

現在會社の手持し居る仕事は製造利益率何割に當り居るやを知る事は經營上最も緊要なる事に屬す。この個々の工作番號に屬する利率は前項に述べたるが如し。今知らんと欲する所は仕事の全體を通じての總平均にして、この註文金額と豫定原價との差額の實數が間接經費を支拂ひて餘りある部分が純益となるものなるを以て、この利率は極めて重要なる事項なり。註文金額の總合計より豫定原價の總合計を減じ、註文金額を以て除したる

ものの%なり。但しこの中には完了品、仕掛品双方を含む。完了品は既濟の事に屬するを以てその數字は確實なるものなれども仕掛品はその進度の程度に依て若干の變動性あるものなるを以て更に之を2つに分ちて考ふるを良しとす。

(f) 完了品製造利益率

上記の計算を完了品の合計のみに於て計算するも の。

(g) 仕掛品製造利益率

上記の計算を仕掛品のみに於て計算するもの。

(h) 仕掛品進度分利益

計算法は前項説明の通りなり。その總合計は計算時に於ける仕掛品の進度分に對する利益なり。仕 掛品に就ては會社の仕事高を計算するに其仕掛分の受註高とその支拂高とを計算し、兩建として貸 借双方に記載する記入法と、その差額進度分利益 丈を一方に記載する片建の方法とあり。一般工業 會社の商習慣をみるに後者の場合が大部分を占む るを以て片建として利益分のみを計上する事とせ り。

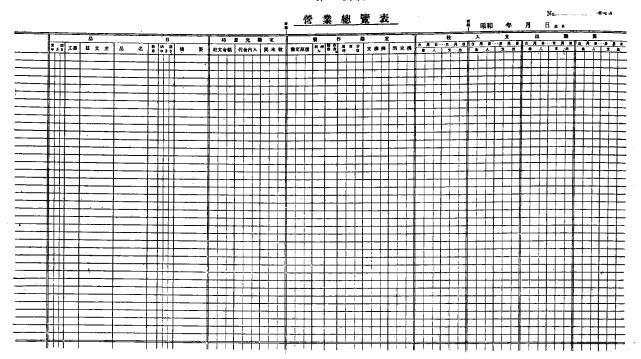
(i) 製造勘定未拂

製作勘定欄の未拂の合計なり。

(i) 總手持仕事完了後に於ける會社の經濟狀態見透し

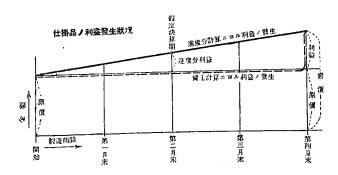
未收金總合計より未拂金總合計を差引き更に之より之を完了するに要する期間の經費及決濟す可き借入金及支拂手形を差引き、その殘額を考慮に入る。然れども本計算は計算期以後に於ける受註は全部之を打切りたるものとし、支拂手形及借入金は全部之を完濟としての計算なるを以て眞の實情に合致せざるものにして、實際は引續き註文を引受け、之に對して收入豫定及原價の支拂高あり、又借入金、支拂手形等は會社の信用は何等の變りなく寧ろ漸次增大す可きものなるを以て、之を完濟としての計算は安全に過ぎて反つて其の當を得ず。即ち本項の計算は貸借共確定し居る事項のみを以て將來を卜するものにして尚若干の變化あり得べきものなりと雖も往々前途の見込を推測するにつき有力なる根據の一助となるものなり。





8. 損 益 計 算

製品1個の單價少額にして多量生産をなすもの或は事業の性質上商業的部分が大半を占め、販賣部は製造工場と別れて時々の市場相場の高低を顧慮し、仕入又は販賣調節を行はざる可らざるが如き事業に於ては、賣上計算を以て損益決算を行ふことを得ると雖も、一般機械工業特に製作に相當日數を要する工業に於ては、この賣上計算による時は各種の不都合を生じ進度分計算を採用するに非ざれば計算困難なり。工作各口の中には今期に受けて今期に終るものあり、前期に受けて今期に終るものあり、前期に受けて今期に終るものあり、可以又數期連續して初めて完了するものあり。金額に於ても1口100圓臺のものより、100萬圓臺のものに至る迄大小混淆して



引受くるを以て、之を進度分計算によらざる時は各期末 に於ける決算損益著しく偏倚して殆ど計算の形態を備へ ざるものとなる。即ち、前圖に於て

(1) 計算の方針

横に製作月數をとり假に4ヶ月を以て完了するものと 假定し、縦に金額をとる。製造原價は取掛りの時より完 了の時迄變化なし。4ヶ月の後に於て完全なる商品價値 を發生し、その賣價との差額丈の製造利益金を生む。今 之を進度分計算による時は途中に決算期の來りたる場合 今假に2ヶ月目に決算するとすれば製造利益率はその比 例分丈生じ居るものにして、この分を見越利益として決 算に計上す。即ち其利潤の發生時期の實情は暫く措き製 作工程の進行する日數に比例して漸進的に利潤を生むも のとする假定の下に定められたる計算法なり。又之を賣 上計算法による時は圖中鎖線を以て示すが如く、製作の 工程中は何等の利益を計上する事なく 4 ケ月の最後に於 て突如として一時に全額の利益を生むものとして計算す るものにして、この計算法による時はその損益は各期末 著しく偏倚波欄を生じ、其結果會社は繼續して不斷に製 造作業を爲し居るに拘らず其成績は極端より極端に走る が如き計數を表はし、著しく實狀に遠ざかるものなり。

依て進度分計算法を採用す。

(2) 未收入金(未拂金出金)記入法

前期に於ける完了品の未收金は前期末の決算面に未收金として計上せらる。其今期に於ける入金の記入法に2種の様式あり。

(a) 未收漸減法

入金毎に未收金の囘收として之を漸減す。此の場合 每月の假決算に於て貸借對照表面の未收金と營業總 覽表面の前期完了品未收金とは合致す。未拂金の場 合亦同じ。尚本法は本格的の記入法なれども若干繁 雜なる嫌あり、實際は記入項數の比較的少き會社に 於て採用せらる。

(b) 入金混記法

決算期の中途に於ける貸借關係以外の營業入金は全部之を代金內入金の科目中に、又製造原價の支出は全部之を製造勘定の科目中に記入す。故に之等の內には前期完了品未收金の當期に於ける入金、同未拂金の出金も亦混記せられ居る事となる。又この法による時は貸借對照表面の未收金は一決算期間不變にして、營業總覽表面に於ける前期完了品未收金は未收發額の實數なり。依てその差額は混入分にして決算に於ては前期分を除外するため之を差引きする事を要するものなり。この法は一種の省略法にして一決算期間の中途に於ける記入法として、又記入事項の著しく多き會社に於て記入經費を節約するがため屋、採用せらるる所なり。

(3) 損益計算法

製造損益はまづ完了品について之を行ひ、仕掛品はその進度分利益のみを計上す。即ち、

收入ノ部	支出ノ部
完了品 資 上金	完了品製造原價
仕掛品進度分利益	前期仕掛品見越利益
雑收入	間接經費
	差引利益金

(c) 完了品資上金

貸借對照表の代金內入金は完了品の賣上入金と仕掛品の內入金とよりなる。依てこの仕掛品內入金を控除する事を要す。又今期の完了品にして代金未收の

ものあり。即ち今期完了品未收金を加算す。前期完了品未收金の取扱方は先の未收漸減法によりて記載せられ居る場合には賣上金の計算はこの3項を以て事足ると雖も、入金混記法による場合には更に此代金內入金より前期完了品未收金の今期に於ける入金額を差引く事を要す。即ち貸借對照表面の未收金は前期完了品未收金の金額にして、總覽表面の未收金は其未收殘高に該當するを以て、この差額が代金內入金中に混記し居る額に相當す。今加算分と控除分とを十一を以て表はす時は完了品賣上金は次の如くなる。

+ 代金内入金(貸借對照表ョリ)
- 仕掛品内入金 (總覽表ョリ)
+ 今期完了品未收金 (總覽表ョリ)
- 前期完了品未收金 (賃借對照表ョリ)
+ 同上 未收養高 (總覽表ョリ)

付營業利益金の外に在庫品利益を見込む場合に於て 第8表(光大)

第	4111	自昭和	4:	月	8	加热物	損益計算書
543	24	至 同	45	H	Ħ	放水料	损益可异香

何 何 株式會社

收入之音	15	支出之部	
完 了 品 賽 上 金		完 了 品 製 造 原 仮	
佛 考 (賣上利益金)(
內 3%		内譯	
代 愈 內 入 金 (對)		製造物定(對)	
仕掛品內入金(總)		仕掛品支拂濟(總)	
今期完了品未收金(總)		今期完了品未排金(總)	
前期完了品未收金(對)		∫前期完了品朱拂金(對)	
同 上 朱牧蒌高(總)			
在雕品工場利益		固定資産へ振換(型)	
		前期仕掛品見越利益	
仕掛品進度分利益(總)		前期仕掛品見越利益	
雜 收入		營 梁 間 接 經 費(工場共)	
小 計		小 計	
差引 純 損 金		差引純益金	1 1 11
合 計		介 針	

決算 損益計算書

收入之	} ₿	支 出 之 部
完 了 品 費 上 金	Tilli.	完了品製造原價
仕掛品 進度分利益		前期仕掛品見越利益
		微樂間接經費
ři !¥		內歸
第一次決算計上分		第一次决算計上分
進度利益 控 額		當期社員實明
		坦末雜費交際費 .
雑 收 入		諸 銷 却
		當期 純益金
台 計		台 計

は之に在庫品工場利益として加算す。以上**第8表**收 入の部の通りとす。

(d) 完了品製造原價

貸借對照表の製造勘定は又次の各項よりなる。 前期繰越仕掛品製造勘定、前期末仕掛品進度分見越 利益、今期完了品支拂額、同じく仕掛品支拂額、又 混入法による場合に於ては、前期完了品未拂金の今 期に於ける支拂額を含む。同樣之を記號を以て表は す時は

+ 製 造 勘 定 (貸借對照表ョリ)

- 仕掛品 支拂 額 (總覽表ョリ)

+ 今期完了品未拂金 (總覽表ョリ)

- 前期仕掛品見越利益

- 前期完了品未拂金 (貸借對照表ョリ)

+ 同 上 未拂殘高 (總覽表ョリ)

(4) 計算の完結法

收入の部に於て仕掛品進度分利益、雜收入等を計上し、 支出の部に於て前期仕掛品見越利益、營業間接經費等を 加算し小計す。次に純益金或は純損金を算す。詳細第 8 表の如し。

尚期末に於ける本決算に於て製造勘定の口別に於て完 了品の領收濟、未收、支拂濟、未拂等を各口別にした一 覽表を作成す。更に要すればこの支拂濟の額に於て原價 計算第1項材料、外注品、工賃、直接雜費等に分類した る原價計算書を添附するものとす。 (完)

【10 頁より續く】

起泡劑として G.N.S. No. 5. Pine Oil を、捕集劑として Gas Tar Oil, reconstructed with 6% S, 又は 50% Lobitos Diesel Oil, 50% Mineral Oil の混合油を使用す る。現在では起泡劑として Flotol, 捕集劑としてザンテ. ートを使用した。海水のみを使用し無試藥の場合 pH 8 の弱アルカリ性を有する Circuit である。屢々分散劑と して Na-Silicate, Crude Pet oleum 等を使用する必要 がある。海水中では Cresylic Acid はその起泡力を失ふ 傾向がある、海水それ自身で相當の起泡力を有し、空氣 浮選機 (McDonald or Callow Cell) で强い眞白な泡沫 が數吋の深さに出來るがこの泡沫は殆んど捕集力がな い。海水の浮選に慣れない職工がこの"Natural froth" に惑はされる。海水に依る浮選では明に著しく粒の荒い 精鑛を生じ、濾過機を使用しないでも脱水し易い。然し 乾燥に際し鹽類が强い固着劑となつて精鑛を固め易く輸 送に際する Dust loss を防ぐ。

黄銅鑛の浮選に對しては明に海水を使用しても何等の 因難はない。加之粗粒の精鑛を得る點及沈澱の容易なこ と等の利點がある様に見受けられる。

石灰を浮選サーキットに使用すると試藥の使用量を減 じ得るのみならず海水による金屬の侵蝕を一部防ぎ得る 利益がある。海水の侵蝕には Admiralty brass が最も よく、High grade Copper 之に次ぎ、Mn 含有量の少 い純鐵が比較的にこれに耐へる。

海水を浮選に使用せる我國に於ける實例 我國に於ては未 だ浮選用水として海水を浮選作業の實地に使用せる實例 はない様に思ふが、鑛山又は選鑛場の位置が海岸にあつ て而も清水を多量に浮選用水として使用し得ない様な場 合に、海水を浮選用として使用し得るや否やの浮選試驗 が行はれた。その報告の概要を各鑛山會社及技術員諸氏 の好意により、その2,3を入手する事を得た。その詳 細を玆に繰返して説明することを省略して、單にその結 論の概要のみをここに掲げること」した。試驗せられた 鍍石は含銅硫化鐵鍍1,鉛、亞鉛、黄鐵鍍1の2つの試 驗報告の結果を掲げると次の如くである。

- (1) 海水を浮選用水として使用する時は何等起泡剤 等の試薬を添加せずして自然に起泡すれ共捕集力を有し ない。
- (2) 海水を浮選用水として使用すると、浮選油の性能は多少劣るも、含銅硫化鐵の選には差支ない。
- (3) 黄鐵鑛の多量を含む鉛、亞鉛鑛の優先浮選に於 て亞鉛精鑛品位及採收率共に稍低下を免れない。鹽基性 浮選の場合には起泡性悪く、石灰の使用量多く、第二次 黄鐵鑛の囘收に不適當なるも、亞鉛鑛及黃鐵鑛を共に浮 鑛し、その浮鑛を再浮選して分離する方法等により、海 水を使用するも優先浮選を行ひ得る。(終)

獨逸に於ける化學機械

(關西側講演及座談會)

去る6月23日大阪中央電氣俱樂部に於て、最近獨逸より歸朝せられたる住友化學工業會社技師鹽谷二郎氏より「獨逸に於る化學機械工業の近情」なる題下に獨逸に於る化學機械技術者養成の情況を始め、Achema を中心とする各種有益なる講演を伺ひ、終つて同會社技師長竹內亥三吉氏を加へて同問題を中心とする座談會を開催し、出席者63名に達する大盛會裡に蒸暑い初夏の講演及座談會を終つた。

出席者(略敬称、順序不同)鉛 市太郎 松永六二 南大路謙一 香坂要三郎 辻元謙之助 青木 友 森田德義(以上阪大) 龜井三郎 志方益三(以上京大) 松本 源 高松 亭 荒井 浩 杉本俊三 谷山孝次 池下守清樫田茂一(以上大阪工武) 小山平治 中島 敏(以上堺職工學校) 佐々木寅雄(大阪工獎) 辰田 正(大阪工研)田邊友次郎 稲村賢三(以上住友伸銅) 栗本順三(栗本蠍工) 土屋蘇丸(大阪機械) 高橋良久(神戸製鋼) 磯部 助一 多田文秋 森田利光(以上大阪蠍工) 杉江重康(三菱商事) 稲田伊作(前田化學機械) 櫻井 彰(櫻井化學機械) 酒井源太郎(フィルタープレス製作所) 渡邊植四郎(高橋蠍工所) 石原賢吉(紡機製造) 加藤 進 小栗善四郎(田中機械) 山內淑人(藤永田) 大山 章(住友機械) 米桝健治郎(川崎造船) 今川重雄(日本窒素)田中銀次郎(堺化學) 本谷久吾(大日本セルロイド) 宮崎秀榮(再生樟腦) 柳田松田郎 明石 毅(大阪ガス)佐久間國三郎(淺野セメント) 菊地土田三(豐年製油) 大塚高吉(東洋石油)時實杖一 松浦 修(武長商店)作川鐸太郎 中島 正(東洋紡科研) 木村高三(日本香料)朝山耀雄(齋藤硫曹) 芝 時孝(第一工業製薬)藤澤友吉(藤澤商店) 佐々木銀爾(吉原製油) 竹內亥三吉 鹽谷二郎 鄕 幸之助(住友化學) 荒木行雄 桐本三三(上野商店) 村田清淳(香川縣醬油試驗場) 以上 63 名

松永氏 それでは只今から兼て御通知申上げました關西側の座 談會を開くことに致します。豫期以上に大勢御出席になりまし た關係で座席變更その他準備のために大變遅くなりまして甚だ 不行屆の段は御容赦をお願ひ致します。今夕は副會長の鉛博士 が出席してをられますので皆様の御賛同を得まして座長をお願 ひしたいと存じます。

出 氏 甚だ僭越でございますが御指名に預りまして座長を勤めさして頂きます。只今松永幹事からお話がございました通り、實は私ども御出席がかう多數でないと豫期してをりましたので小さな部屋で全く圓陣を作つて座談式にお話を願ふ積りでをりましたところ、御出席の御申込が 75 名ございましたので、到底座談會のやうな形式の机の配列は出來ませんで席を作り變へました關係上席順も不都合の點がありまして御迷惑かと存じますが、どうかこの會が斯の如く盛會である——75 名の御申込のうち只今50 名御出席になつてをります——ことは我々主催者と致しましては非常に有難く、御出席の皆様に厚く御禮申上げますと共に會の成長を喜んでをる次第であります。

本日は座談會とは申しますものの、長らくドイッに御滯在になりまして最近お歸りになりました住友化學工業會社技師鹽谷

二郎さんから「獨逸に於ける化學機械工業の近情」といふお話 をまづ約一時間承りまして、その後に質問といふやうな形で座 談會に入りたいと思ふのであります。たぐ一寸お斷り申上げた いのは、この演題には「獨逸に於ける化學機械工業の近情」と なつてをりましてこれに間違ひないのでありますけれども、時 間も限定されてをりますことでありますし、獨逸に於ける化學 工業の技術者の養成といふやうなことを中心にしてこの題に最 も副ふやうにお話下さるといふことであります。 尚質問に入り ましては皆様御承知の長く獨逸にをられまして最も獨逸通でを られる住友の竹内さんがをられますので御二人で質問にお答へ 下さることになつてをります。尚質問と申しますものの座談會 でありますから単なる御質問でなしに皆さんの御意見を十分に お述べ下さいまして質問兼意見發表といふことでこの座談會を 進行致したいと存じます。それでは時間も遅れてをりますから 早速まづ鹽谷さんのお話を願ふことに致しましてその後に於て 座談會に入りたいと存じます。